

学位論文審査の要旨

学位申請者	池松 香 【理学専攻 平成27年度生】	要 旨
論文題目	静電容量方式タッチサーフェス上の実物体と手指動作を用いたインタラクション拡張	<p>本論文で学位申請者は、静電容量方式タッチサーフェスを対象とした独創的で実用性の高い入力アタッチメント、および入力ジェスチャを多数提案し、その有用性を実証し、当該分野の第一人者たる研究成果をあげている。また本論文の内容は、原著論文として学会論文誌に5件掲載されるとともに、この分野のトップカンファレンスを含む3件の国際会議にて登壇発表された。このほか、多数の査読付き国内外学会で発表を行っている。また、査読付き国内シンポジウム論文1件は最優秀論文賞を受賞した。</p> <p>これらの顕著な研究成果を踏まえて、以下の日程で学位論文審査を実施した。</p> <p>第1回は平成30年12月22日にメール審議した。提出された論文の内容および問題点を洗い出し、第2回目以降の審査方法（学位申請者本人を呼び出しての審査方法）について審査委員間で合意をとった。第2回は平成31年1月10日、第3回は平成31年1月25日に開催した。いずれも学位申請者による40分程度の研究内容説明の後、質疑を取り交わし、論文内容の修正や改善について学位申請者に指示を出した。その後、平成31年2月23日に、公開発表会および最終試験を実施した。審査委員および出席者からの研究内容全般にわたる幅広い質問に対して、学位申請者は的確に回答し、本論文の研究内容の完成度の高さおよび、本研究分野における見識の広さと深さを示した。以上の結果から審査委員は、最終試験を合格と判定した。第4回は平成31年2月23日、公開発表会・最終試験後に開催し、公開発表会および最終試験の内容を踏まえて、論文内容を最終確認した。以上の結果から本審査委員会は、本論文が人間文化創成科学研究科の学位、博士(理学) Ph. D. in Computer Science の学位を受けるに相応しいと判断した。</p>
審査委員	(主査) 教授 椎尾 一郎	
	教授 伊藤 貴之	
	教授 小林 一郎	
	教授 小口 正人	
インターネット公表	<p>准教授 志築 文太郎 (筑波大学システム情報系)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学位論文の全文公表の可否 (可 ・ ○否) ○ 「否」の場合の理由 <ul style="list-style-type: none"> ア. 当該論文に立体形状による表現を含む イ. 著作権や個人情報に係る制約がある ウ. 出版刊行されている、もしくは予定されている ○エ. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている <p>※本学学位規則に基づく学位論文全文のインターネット公表について</p>	